平成３１年２月１日

青２組保護者各位

黒野こども園

寒い日が続きますが、昼間は上着を脱いで園庭でけいどろや縄跳びをする子ども達です。

さて、２月８日は“みんなのはっぴょうかい”があります。私の幼少期の発表会で印象に残っていることについて書きます。私は年長の発表会で白雪姫の“魔女役”を演じました。（先生から勧められてこの役になった気がします。）私は小さい頃からとにかく目立ちたがり屋で３人の魔女役がいる中で誰よりも大きな声を出していました。すると担任の先生がにっこりと笑い、親指を立てて「はるかちゃん素敵だよ」と褒めてくれることが嬉しくって仕方ありませんでした。しかし白雪姫役のＳちゃんは練習になるといつも泣いていて、Ｓちゃんが泣くと劇が最後まで出来ずに終わることがあり、劇の練習が好きだった私は残念な気持ちでした。しかし担任の先生はそんなＳちゃんを優しく抱っこし「頑張ったね」と励ましていました。“私の方が頑張っているのに”と内心Ｓちゃんに嫉妬しながらも毎日練習に励んでいました。発表会当日、Ｓちゃんは白雪姫を演じきりました。今思えばＳちゃんにとって先生の「頑張ったね」は、小さな頑張りを見落とさず、いつも励ましてＳちゃんを成長させてくれた言葉だったと思います。子ども達にとって園生活最後の発表会です。どの子も積み重ねてきた頑張りに自信を持ってステージで披露できるようにこれからも毎日一人ひとりの頑張りを認め、声を掛けていきたいと思います。保護者の方にも温かく見守って頂き、子どもたちのたくさんの成長を感じていただきたいです。（文責：田中）

小学生になる為の階段

〈今月のテーマ〉★自分のことは自分でしよう★

① 自分のロッカーの中を整頓しよう

② 食後自分の使った机の上下を綺麗にしよう

③ 翌日の給食セット・ハンカチ・鼻かみ・洋服は前日に準備をしよう

小学校入学まで残り２ヶ月になりました。小学生になると自分の身の回りのことは自分で管理をするのが当たり前になります。今の子ども達の生活を見ていると、お絵かきを楽しんだ後の床には紙くずが散らばり、ロッカーの中のはさみのキャップが外れたり、道具箱の外にあったり、友達の道具箱に自分のカラーペンや鉛筆も入っている子がいます。次の遊びに移りたい気持ちが強いと片づけが雑になりがちです。そこで毎日帰りの片付けのときに、当番と保育教諭が“お道具箱チェック”として、ロッカーの中が綺麗になっているか確認していこうと思います。また給食後、当番がほうきや雑巾かけをしようとすると「先生、今日パンだったから机に小さいパンが落ちているよ」「お米の粒が潰れて雑巾でも取りにくいよ」と掃除しづらいことを教えてくれました。友達との話しに夢中になり、椅子にまっすぐ座らずに、こぼしてしまう子もいます。まずは正しい姿勢で食べることを意識出来るように声を掛けていきながら、こぼれた時は自分で拾ったり、拭いたりしていき、給食後には自分で使った机の上と椅子の下の床の掃除をしていこうと思います。また、子ども達の話を聞いてみるとご家庭で毎日次の日の身支度を自分で行っている子がいるようです。毎日行うことで子ども達は習慣となり、進んで“自分のことは自分で”が出来るようになります。ご家庭でも給食や食事のマナーについて話題にして頂いたり、毎日“給食セット・ハンカチ・鼻紙・洋服”等、身の回りのことが子どもたちが準備できるように見守って下さい。残りわずかな園生活の中で子ども達が頑張って出来るようにしていきたいと思います。

＜子ども達が安心して元気に生活できるように、保育教諭が子どもにすること＞

＊気温が変わりやすいため、手洗いうがいの大切さを伝え、保育室の気温・湿度管理をして感染症予防を心掛けます。

＊食べ終わる時間を時計に分かりやすく記し、意識して給食を食べられるようにしていきます。

＊鬼のお面を作ったり、ひな祭りに関する歌や手遊びをして伝統行事に興味を持てるようにしていきます。

＊友達とトラブルが起きると徐々に自分の気持ちを相手に伝えることができるようになってきました。今後は相手の気持ちを知り、どのように解決すれば良かったのかを保育教諭が仲介に入って考えていけるようにしていきます。

＊冬の自然現象に目をとめ触れて遊ぶ機会を大切にします。子ども達の発見や気づきを遊びに広がるように廃材や素材を準備し自然と関われるようにしていきます。

〈子どもの遊びや教育的活動〉

＊全身を使って遊ぶ鬼ごっこやけいどろ遊びを積極的に参加します。

＊遊びの中で相手と駆け引きしながら作戦を立てて、ルールのある遊びを楽しみます。

＊発表会で友達の役に興味を持ち、保育室でペープサートや小道具を使って演じることを楽しみます。

＊冬の現象に気づき、友達と伝え合いながら遊びに取り入れていきます。

＊異年齢の子と関わりを持ち、いたわりの気持ちを持って遊びます。

＊就学に期待を持ち、目標に向かって行動できるようになります。

みんなのはっぴょうかいに向けて・・・

＜十二支のおはなし＞

子ども達で「ぼくはたつどし」「お姉ちゃんはとら年なんだ」と自分や家族の干支の話に夢中でした。小さな劇場を作り、ペープサートで十二支のおはなしを楽しむ中で少しずつ劇遊びも興味を持ち、歌ったり、セリフを言うようになりました。動物になってセリフを言う子ども達は、いつもとどこか違った表情で役になりきったり、恥ずかしさから前が向けずに友達の顔ばかり見ていたりと、日々の生活で見せない姿が見えたりします。皆の前でセリフと自分たちで考えた振りを見せた時に「犬とさるさん、面白い」「もう一回見たい」と友達が演じる姿を褒める子や恥ずかしさで声が小さくなる子に「頑張って、上手だよ」と声をかけ、友達の姿を見て“いいところみつけ”をしていることに嬉しくなりました。「力強く動くのは？」「のんびりした様子はどんなのなのかな？」「飛んでいる時はどうしようか？」と情景を思い浮かべながらセリフに合わせた動きを考えていました。自分の思いだけでなく、友達の意見を聞いたり、相談することが出来るのも、子ども達の成長だなと感じました。劇の中で“ことわざ”がいくつも出てきます。「知ってる」と子ども達が大きな声で答えてくれたものから難しく知らないと言う言葉もありましたが、お家で“ことわざ”について尋ねる子はいましたか？どんな“ことわざ”が出てくるのか、子ども達の声をよく聞いていてください。曲に合わせて干支を順番に答えたりお家の方に“ことわざ”を聞くこともありますので、ぜひ大きな声で答えてくださいね。